

衆議院選・知事選にあたって

—8月30日・同日投票—

福祉・平和大国をめざす国政改革を！

今回の総選挙の特徴のひとつは、国民ないがしろの積年の政治をなすり合うがごとく、政権を守ろうとする陣営と政権奪取しようとする両陣営がなりふり構わず「バラマキ」公約をしていることです。ついこの前まで国民いじめの政治をしてきたのに……。私たちは目をこすって見極めましょう。

ひとつは、これからの日本のすすむ道の選択です。一方は、経済大国から低所得者層に光を当てる福祉大国に。そして世界から貧困と戦争をなくすために憲法を全面的に活かす平和大国をめざす道。他方は、経済大国から政治大国さらにアメリカに追随して軍事大国への道です。

ふたつには、国民のための民主政治の根幹は私たちの税金がどう使われるかです。不良債権で銀行・大企業に60兆円～70兆円も使うのでしたら、困っている国民各層にそれ相応の税金を使っても良いが公平な税金の使い方です。ましてや、毎年5兆円もの「軍事費」を湯水のように使っているのを自民党・公明党・民主党が口をつぐんでいるのはいただけません。

県民が主人公の県政実現を！

生活の向上をめざす県民主人公の県政にとって最も大切なのは県民の要求に基づく政治の実現です。その反対の例が百里軍民共用化を進めている茨城空港事業です。県民の要求もないままに「造られた要求」で、「でたらめな作文」で年間利用者81万人、国内線4便がいつの間にか乗り入れる航空会社がないからと国際線1便に。喜んだのは事業請け負いのゼネコンと今年はじめから新しい滑走路を使用している自衛隊です。犠牲を被るのは560億円以上の事業費とこれからの赤字を背負う県民・国民です。厚顔無知にこんなずさんな事業を平気で推進できるのは自民党県連と茨城知事くらいです。静岡県知事も辞職しました。県民のくらしと平和を守るのは、私たちひとりひとりが立ち上がることから始まります。ともに頑張りましょう。

原爆の被爆の実相を知らせ

署名活動から始まった原水爆禁止運動

原水爆禁止茨城県協議会 会長 加藤 岑生

「核兵器のない平和で公正な世界を」テーマに今年の原水爆禁止世界大会が開かれます。今年の4月、チェコプラハでのオバマ米大統領の「核兵器を使用した唯一の国として、米国は道義的責任がある」「米国は核兵器のない世界という、平和と安全を追求することを約束する。」との演説を契機として、被爆者と被爆国日本の悲願である「核兵器のない世界を」実現する大きなうねりが広がっています。世界大会は来年の核不拡散（NPT）再検討会議に向けて、核兵器廃絶の世論を広げる大会として、内外から期待と注目が集まっています。

さて、オバマ演説の後、5月に開かれた核不拡散（NPT）再検討会議の予備会議において2000年の核廃絶に対する「核保有国の明確な約束」が2010年のNPT再検討会議の正式な議題となることが満場一致で採択されました。また、7月の米口首脳会談で核兵器削減条約の協議が行われ26000発の核兵器を1500発～1700発に制限することに合意し12月に締結方向で協議しています。この他、非同盟諸国会議が「核兵器廃絶が非核の世界実現の唯一の道である」と宣言、G8首脳会議が核兵器廃絶への条件整備を決意するなど核兵器廃絶が世界的に大きな流れに発展しています。これまでの部分的な国際的合意でなく、核兵器廃絶を中心にした交渉が行われ、核兵器全面禁止条約締結へと発展する好機を迎えています。

さてこのような中でこれまでの核兵器廃絶の運動についてその原点について思い起こし考えたいと思います。それは大きく情勢が変化する時は原点を見失う恐れからです。

ヒロシマ・ナガサキの被爆の実相を知らせることが1946年の国連第一号決議に結実し、日本国においても憲法9条を生みだしました。これが1950年のストックホルム

ム・アピールの署名が世界で5億、占領下の日本で645万を集め、朝鮮戦争での核兵器の使用を止めたのでした。1954年アメリカのビキニ水爆実験でマグロ漁船「第5福竜丸」が被災しました。これを契機として史上空前の国民運動に発展し原水爆禁止の署名を55年8月に3238万余を集めました。そして、「核戦争阻止」「核兵器廃絶」「被爆者救済」をテーマとした原水爆禁止日本協議会が発足したのです。このことから、被爆の実相を知らせること、核兵器廃絶の署名を集めることが原点であることを知ることができます。

いま、日本原水協は来年の2010年NPT再検討会議に向け、「核兵器のない世界を」の署名を全国で1200万以上に茨城県では30万以上に挑戦しています。これまで様々な署名運動が提起されてきました。またかという感も否めないにしてもこの運動こそが原点であったことに思い至ることが必要です。今回は前に述べたように有利な情勢を背景に国民的な運動で積極的に創造的な運動に発展したいものです。そしてたとえば各地域での原爆写真展などの取り組みなどを通じて、署名推進委員会名を結成し、是非とも地域原水協を結成する展望を切り開いてほしいと思います。



<h1>平和かわら版</h1>	No.539
平和新聞茨城版	月3回 発行
発行：茨城県平和委員会	2009.8.5
〒310-0912 水戸市見川5-127-281	
Tel/Fax 029-251-2806	
E-mail ibahei@amber.plala.or.jp	



地域の取り組みに自信と確信を深めた交流集会

＝「戦争と平和を考える特別旬間」県内20ヶ所で開催＝

県平和委員会の活動交流集会が8月1日、県青少年会館（29名参加）開催されました。午前中はイラク戦争のDVDを鑑賞しその後、感想を出し合い現代の戦争について話し合いました。特に、民間人の「傭兵」を使ってのアメリカの戦争に「ここまで来たのか」の感をもちました。午後からは2つのグループに分かれて、日頃の地域活動を報告しあい今後のあり方などを交流しました。当面、総選挙及び県知事選で平和政治勢力が大きく伸びるために奮闘し、8月の「戦争と平和を考える特別旬間」の取り組みを成功させるために頑張ることを申し合わせしました。

第1グループの報告 鹿行平和の会 木村 泉

第1グループは、北茨城・那珂市・土浦・鹿行（2名）・阿見・ひたちなか・内原友部（2名）・八郷・石岡（2名）・笠間西・県事務局長の14名が参加し、司会は藤田（北茨城）、記録は木村（鹿行）でした。最初に一人3分程度で最近の活動や考えていることを発言。多くが九条の会とともに活動し、あるいは下支えをしながら取り組んでいる様子が語られました。なかでも、70数名で事務局を構成し、機関紙200号を突破した土浦や、澤地久枝講演会に取り組んでいる石岡、オオムラサキの観蝶会をした八郷、毎年2週間も宣伝カーを走らせて宣伝活動に余念のない那珂、反核国際署名に定期的に取り組んでいる鹿行、社会教育団体として認定させ、行政の支援を受ける体制をつくり活動している阿見など、地域の状況に応じた多様・多彩な取り組みを、元気いっぱいに進めている様子が語られました。

一回り発言が終了した後、発言に共通すると同時に、県平和委員会から提起された課題でもある、「若者との連帯」「組織拡大・財政関係」に話が絞られました。

特に若者との連帯は、今後の平和運動の広がりを決定づけるとともに、運動の担い手をどのように育てていくかと

言うことにもつながる重要課題です。「飲み会に誘う」などの話しも出されましたが、平和行進の具体的な取り組みから、自治体の予算で、中学生を広島・長崎平和大会に派遣していることが出されました。しかも実現させるに当たって、地域の平和委員会が大きな力を発揮しています。地域の関係者と協議し、自治体に要望を提出、交渉し、実現したのちも、報告会の開催、他の生徒への報告の実現など、丁寧な取り組みをしている様子が話されました。将来的に平和運動を支える若者との連帯は、活動する仲間を直接増やすと同時に、広く運動を支援する若者を地域の力で育てることです。地域の全中学校を訪問し校長と率直に話しあった実践（北茨城）、市長・議長と毎年定期的に懇談し平和行政を拡大している取り組み（阿見）等の話の中で、中学生を自治体として平和大会に派遣することの大切さ。また「どの自治体でも派遣を実現するためのマニュアルを作成する必要がある」という意見も出されました。

仲間づくりでは、「草の根運動としてはすぐわないかも」という面はあるにしても、やはり具体的目標を設定し、目的意識的に取り組む重要性が討議されました。組織担当からは、対策を協議した後、地域関係者との具体的なやり取りなども報告されました。

第2グループの報告 阿見平和の会 中山熙之

参加者は中央の岩月さんを含めて11名。石岡の山口さん・稲田さんの司会で進行。最初の、自己紹介を含めた活動報告で特に耳に残ったものを、筆者の独断でピックアップする。石岡:会員が50名で、多くが現役引退組。定期総会の日に学習会もおこなう。学習会だけに出る人もいる。親睦会を兼ねて、靖国神社等の周遊会を10月に計画。平和の会が中心になって組織した9条の会が3周年を迎え、記念に澤地久枝講演会を企画している。

内原・友部：会員50名近く。6月総会。春の集い（山菜の天ぷら）、秋の集い（キノコ狩り）一楽しい行事で会員が4名入った。軟らかい企画だけでなく、硬い学習も重視。例えば、1945以来の核廃絶運動の流れを資料化して学習。平和新聞も活用。

土浦:会員数70名余。理事7名で毎月理事会。配付集金体制も完備。憲法記念日集会や平和行進などは、実行委員会を作って進める。広島に平和使節団を送る。毎年、日帰り又は1泊で平和の旅を催す。若い人が入ってこないのが悩み。

報告が終わった後、司会者が4点の話題を提起。紙数が少ないので、3点にまとめて報告する。

イ) 自治体合併の影響について。非核宣言が対等合併の場合は無効になるので、再決議させること。1自治体に対し、1平和の会に整理することが、当局との連絡や交渉で有利であること。

ロ) 会員増やしについても色々出たが、「楽しいこと・美味しいこと・肩肘張らないこと・知りたい要求に応えること」が大事だ。と言うのが大方の一致点だと思われた。

ハ) 県への要望と集金。パネル写真の新しいものが欲しい。また、平和新聞等を分局へまとめて送り、担当者が戸別配付・集金すれば、新鮮な配付と経費節約が両立できると討論の中で説明。

以上

映画

鶴彬 こころの軌跡

神山征二郎監督作品

反戦川柳作家・鶴彬を知っていますか。生誕100周年の今年、ドキュメンタリー映画『鶴彬 こころの軌跡』が上映されます。

8月14日(金) 午後7時00分～

8月15日(土) 午後1時30分～

(両日ともプロデューサー挨拶があります)

県民文化センター小ホール

当日券¥1300 前売り一回券¥1000 ペア券¥1600

前売り券は県民文化センター、水戸京成百貨店、cocoストア各店、茨城映画センターにて取り扱っています